

如水会寄附講義 「社会実践論」講義要綱 (2016年度冬学期)

講義責任者: 筒井 泉雄

オリエンテーション
2016年10月4日(火) 14時40分/15時30分
インテリジェントホール

如水会寄附講義「社会実践論」では、社会の第一線で活躍されている、本学出身の12名の先輩の方々にオムニバス形式による講義(火曜4限)をお願いしています。

本講義は、皆さんが、将来への展望に胸を膨らませ、希望を実現するための学問を涵養する指針となるように、如何に学ぶかを考える指針となるよう考えられた講義です。

「どのように人生を歩んできたか」という経験に裏打ちされた職業意識、人生哲学など、経験を踏まえた講義を、現在第一線で活躍されている先輩の方々にお願いしています。諸先輩講師陣は、自らの経験と立場から職業や産業の現状を礎に、現代社会や社会での自己実践のありかたを皆さんの前に広げてくださいます。

講義を聞き、先輩の方々の生き方やグローバルな考え方に触れ、自身と照らし合わせて考え、質疑応答、感想、意見という形で呼応し、ともに学び、皆さんのキャリア形成の第一歩を踏み出してください。

なお、本講義は、如水会及び一橋大学後援会「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。「キャプテンズ・オブ・インダストリーを考える委員会」は、故永井正(22学)氏が寄附された基金をもとに、一橋大学の学問風土の活性化を目指して活動しています。

	日付	テーマ	講師
第1回	10月 11日 (火)	一橋大学と如水会	岡田 円治
第2回	10月 18日 (火)	パナマ文書とこれからのメディア ～メガリークの時代にメディアはどう対応するのか	立岩 陽一郎
第3回	10月 25日 (火)	技術者集団における文系の力	竹内 悠
第4回	11月 1日 (火)	日本の広報文化外交に携わって	小野 日子
第5回	11月 8日 (火)	自分のみがき方 何が自分にとって心地よくて、他人に貢献できるのか?	川合 純一
第6回	11月 15日 (火)	「リスクへの挑戦」 保険機能はリスクをどう克服するのか	陶山 寿一
第7回	11月 22日 (火)	私の仕事 「人の心に添うこと」	岩淵 美和
第8回	11月 29日 (火)	やりたいことを仕事にする「起業」という職業人生	クロイワ 正一
第9回	12月 6日 (火)	社会貢献・多様性理解から得られるもの	只友 真理
第10回	12月 13日 (火)	キリスト教ギョーカイは あなたを待っている(かもしれない)	伊藤 淳
第11回	12月 20日 (火)	弁護士としての仕事の広がり	鶴 由貴
第12回	1月 10日 (火)	外航海運事業の過去、現在、未来	高橋 静夫

第1回 10月11日(火)



テーマ：一橋大学と如水会

講師：岡田 円治 経済学部・昭和48年(1973年)卒
一般社団法人 如水会 理事・事務局長

社会実践論第1回は、「一橋大学とは何か?」です。大学の歴史は「波乱に満ちた歴史」です。その波乱の歴史の中で、生まれ、成長していった社会科学系総合大学一橋大学の精神は、日本の近代化、高度に発展した経済国家への道のりと軌を一にしたものでもあります。大学と不即不離の如水会は、その過程でどのような役割を果たしてきているのか?通常の同窓会とは全く異なる如水会の存在と役割についても考えます。42年間のNHK人生の中で得たこと、ジャーナリズムの世界では、大学で学んだどの部分が、どのように生きるのか。単なる知識ではない、「考え方を学ぶことの大切さ」についても考えます。

第2回 10月18日(火)



テーマ：パナマ文書とこれからのメディア

～メガリークの時代にメディアはどう対応するのか

講師：立岩 陽一郎 社会学部・平成3年(1991年)卒
NHK 国際放送局 World News部 チーフディレクター

パナマ文書は、各国のジャーナリストがデータと情報を共有する仕組みがあって初めて報道することが可能となりました。その仕組みを最初に示したのはチャールズ・ルイスという米国人ジャーナリストです。彼は約20年前、既存のメディアには限界があると考えて、NPOを立ち上げて自らが調べただけを報じる報道を始め、その活動は徐々に世界に広がります。彼は更にそれらを束ねる団体を作り、それがパナマ文書報道の土台となったのです。私はNHKでパナマ文書の取材に中心的に関わりつつ、ルイスが提示した新たなメディアの日本での実現に取り組んでいます。講義では、世界で始まっているジャーナリズムの新たな動きを概観しつつ、日本での課題や今後について考えます。

第3回 10月25日(火)



テーマ：技術者集団における文系の力

講師：竹内 悠 国際・公共政策大学院・平成19年(2007年)卒
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)
第一宇宙技術部門事業推進部 主査

法学部では模擬国連サークルに明け暮れ、一期生としてIPPに入学。個性豊かな教授陣に専門職業人として鍛えられ、専門の国際法を前向きに使える職場として志望したJAXAに入社しました。以来、国際法務を主軸にしつつ、外務省出向や留学等を経て、現在は地球観測衛星の予算を担当しています。宇宙は、国際的には未だに冷戦構造を引きずる特殊な空間で、国際関係の血が騒ぐ大変興味深い場面も多々あります。一見華々しい宇宙開発ですが、突き詰めれば地上の技術をいかに宇宙空間で活かすか、という活動のため、現場は地味な作業の集合体です。この道一筋の研究者やエンジニアに交じて文系の力をどのように発揮するか日々悩みつつ奮闘してきた世界をご紹介します。

第4回 11月 1日(火)



テーマ：日本の広報文化外交に携わって

講師：小野 日子 社会学部・昭和63年(1988年)卒
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポークスパーソン

1988年に外務省に入省してからこれまで、地球環境問題を皮切りに、WTO交渉や、ODAを通じた経済協力等、非常にやりがいのある分野に取り組んできました。2012年夏以降は、日本の広報文化外交を様々な角度から担当してきました。今回は、これまでの経験を基に、日本の広報文化外交の最前線について、4年後に控えた東京2020大会も含めてご紹介しながら、国際社会における日本の立ち位置や今後の進むべき方向性について、皆さんとともに考えてみたいと思います。

第5回 11月 8日(火)



テーマ：自分のみがき方

何が自分にとって心地よくて、他人に貢献できるのか?

講師：川合 純一 経済学部・平成2年(1990年)卒
グーグル株式会社 執行役員 営業本部長

バブル華やかだった1990年。同級生達が当然のように大手企業に内定を得る中、いわゆる典型的な一橋生の就職がイヤで小規模の外資系コンサルティング会社に就職。その後、1994年にリクルート入社。営業・商品企画・経営企画・新規事業開発などを歴任し、2007年にはマッキンゼーアンドカンパニーに入社。アソシエイトプリンシパルとして通信・メディア業界のプロジェクトをリード。更にアイ・エム・ジェイ取締役COOを経て現在はGoogleの執行役員・・・自分の価値観を信じて「型にはまらない」道を歩んできました。「働く自由人」として大切にしていること、培ってきた職業観や人生観についてお話します。頭を柔らかくして参加してください。

第6回 11月15日(火)



テーマ：「リスクへの挑戦」 保険機能はリスクをどう克服するのか
講師：陶山 寿一 経済学部・昭和55年(1980年)卒
東京海上日動火災保険株式会社 常務執行役員

大学時代というのは、大きく分けて2つの難問「自分とは一体何者であり、どこに向かおうとしているのか。」「社会・経済をどう見るのか(という社会観や世界観)。」が、どっど押し寄せてきて煩悶する時期といえます。そして、この二つの問いは表裏一体的に関係しあっています。「自分が何者であるか」という問いに対しては、その解を、自分自身を内省的に見つめることで導く部分と、社会や経済との関係性において導く部分とがあるからです。両者を知ることがセットになってはじめて解が見いだせるといっても良い。この問いに対して「(保険機能によって)お客様のいざつという時をお守りする」という職業人としての経験を素材に導き出した「私なりの解」を皆さんに紹介したいと思います。

第7回 11月22日(火)



テーマ：私の仕事 「人の心に添うこと」
講師：岩淵 美和 社会学部・平成19年(2007年)卒
世田谷区北沢総合支所
保健福祉課障害支援担当発達支援コーディネーター 臨床心理士
社会事業大学大学院博士後期課程1年

一橋大学を卒業して約10年経ちますが、臨床心理士の資格を取得するために進学した修士課程の間に2度出産したために、キャリアはまだ4年ほど。現在の仕事は、発達障がい児/者とその家族の相談支援や、支援のコーディネーターをする発達支援コーディネーターです。また、今年の4月に下の子どもが小学生になったのに合わせて、自分も大学院の博士課程1年生になりました。研究テーマは施設措置未満の在宅の子ども虐待ケースへの支援です。臨床心理士と大学院生。2足の草鞋を履く2児の母として、まだまだこれまでの自分を振り返る余裕などなく、遙か前を見て進む毎日です。皆さんより少し長く生きている人間として、等身大の自分をお伝えできたらと思います。

第8回 11月29日(火)



テーマ：やりたいことを仕事にする「起業」という職業人生
講師：クロイワ 正一 社会学部・昭和63年(1988年)卒
ヘルメス株式会社 代表取締役

講義は、3部構成で進めます。第1部では、なぜ私がB判定の「上」が出ていた東大の文Ⅲや京大の文ではなく一橋大学社会学部を受験し入学したのか、その理由をお話します。第2部では、大学入学当初の「期待はずれ」の講義と「国家公務員I種(現・総合職)」や「一部上場企業」への就職に執着する先輩たちに抱いた違和感と、図書館に籠り文献を漁った効用について、お話します。これで20~30分でしょうか。第3部は、就職後、そして起業後に実感したパラダイムシフトのお話をします。アップル創業者のS・ジョブズの演説connecting the dots と関連づけて自由な職業人生について、提言します。「起業」というとハードルが高そうですが、そうではないことを後輩の皆に力説したいです。

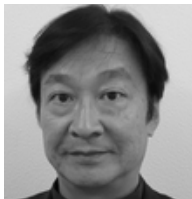
第9回 12月6日(火)



テーマ：社会貢献・多様性理解から得られるもの
講師：只友 真理 商学部・平成14年(2002年)卒
AIGジャパン・ホールディングス株式会社 CSRマネージャー

「人生を変えるような出来事がありましたか?」と問われ、迷わず「子どもを産んだこと」と答えました。ワーキングマザーとなり、それまであまり見えていなかったものが見えるようになりました。子どもを育てるためには社会を良くする必要があること。世の中には様々な人が暮らしていること。仕事でも、現在はAIGジャングループのCSR(企業の社会的責任)活動を統括し、企業がどのように社会に貢献していけるかという課題に取り組んでいます。自閉症や発達障がいの啓発、LGBT支援など、多様性理解にも関わっています。個人としても企業としても、活動を通じて得るものがあります。「きれいごと」ではない、リアルで身近な社会貢献・多様性理解について一緒に考えていきましょう。

第10回 12月13日(火)



テーマ：キリスト教ギョーカイはあなたを待っている(かもしれない)
講師：伊藤 淳 商学部・昭和59年(1984年)卒
社会学部・平成元年(1989年)卒
カトリック東京大司教区 清瀬教会主任司祭

本講義は、キャプテン・オブ・インダストリーたるべくキリスト教ギョーカイを目指す学生諸君に、市場の構造と実状を解き明かし、シェア争いをいかに勝ち抜くか、その具体的方策の一端を提示するものである…と言ったところで、そんな話、誰も食いつかないでしょ?分かってますよ、私だって。そもそも、キリスト教の世界で働くために一橋大学を選ぶ人なんて皆無でしょう。なのに、なんで私なんか呼んだんですか!一橋大生憧れの職業に就いて活躍中の先輩講師陣の中で、私ひとり浮いてるじゃないですか!…というわけで、この回はホント、ごめんなさいなのです。ただ、ひとつ不思議なのは、入学時には志望者ゼロだったはずなのに、一橋を出た後に神父や牧師になる人って、けっこういるんですよね。なんででしょ?

第11回 12月20日(火)



テーマ：弁護士としての仕事の広がり

講師：鶴 由貴 法学部・平成4年(1992年)卒
弁護士法人協和総合パートナーズ法律事務所 弁護士

弁護士の仕事として、思い浮かべることはどのようなことでしょうか？ 弁護士としての仕事は、裁判で法廷に立ったり、交渉をして契約書を作成したりするだけではありません。自分の興味と意欲があれば、いくらでも仕事の幅が広がる可能性のある職業です！ 皆さんの持っている弁護士のイメージとは異なるかもしれませんが、私自身のこれまでの経験(弁護士実務についてからこれまでの主な仕事の変遷)を基に、弁護士としての仕事がどのようなものであるか、どのように広がっていく可能性があるのか、お話ししたいと思っています。弁護士に興味を持っていない方でも、将来、弁護士と関わる可能性があると思いますので、今までの弁護士像を切り崩す意味で、是非、聴いていただきたいと思います。

第12回 1月10日(火)



テーマ：外航海運事業の過去、現在、未来

講師：高橋 静夫 社会学部・昭和56年(1981年)卒
株式会社商船三井 取締役 専務執行役員

外航海運は、B to C的には目立ちませんが、世界経済の発展を支えてきた貿易の拡大を担うグローバルなロジスティクスインフラであり、また日本のような非資源国の民生を支えるライフラインでもあります。世界人口一人当たりの海上輸送量は、1965年に0.5トン/人でしたが、2003年に1トン/人を超えました。現在、世界の海上輸送量は100億トンを超え一人当たり、1.4トンの海上貨物が輸送されています。また日本商船隊は、2600隻、1.7億重量トンの船腹量を有し、世界の船腹量の1割強を占めています。グローバル経済の中で成長産業であるとともに、世界単一マーケットで競争にさらされる、海運のダイナミズムについて、皆さんに関心を持って頂けるよう、私のこれまでの経験を踏まえ卑見をご披露してみたいと思います。